

市民が元気で笑顔になれる

市政運営の4つの柱 重点施策

医療・福祉・子育て支援の整備促進

- 健康づくり活動の推進と環境整備
- 医療体制の整備・充実
- 子どもを産み育てやすい環境の整備
- 障がい者や高齢者に優しいまちづくりの推進
- 教育環境の整備



持続可能で安心安全なまちづくりの推進

- 災害に強いまちづくりの推進
- まちづくり協議会の支援
- 公共交通機関の利用促進
- 市有財産や公共施設の適正な管理
- 自主財源の確保など、効率的・効果的な行政経営



産業の育成・雇用対策の推進

- 中心市街地活性化の推進
- 創業・起業支援と企業誘致の推進
- 農林畜産産業の振興と担い手育成
- 農畜産物や特産品の販売の推進
- 経済効果のある観光振興の推進
- コロナで疲弊した地域経済の活性化



スポーツ・文化活動の振興

- スポーツ活動の推進と環境整備
- 文化・芸術の振興
- 歴史と自然環境の保護・保全
- 国際交流と国際化の推進
- 各分野で活躍する市出身者との交流を推進



健康づくりから市民を元気で笑顔に

私は、最重要施策として「健康のまちづくりの推進」を掲げ、これまで積極的に取り組んできました。今後も、将来的な社会保障費の抑制にもつなげるべく事業を展開してまいります。

特に、基本計画を策定した健康のまちづくり拠点施設整備事業については、体育館機能や健康づくり機能、子育て支援機能、避難所機能を備えた複合型施設として整備を進める方針です。

強みをいかした施策で人口減少対策

全国的に地方の人口減少が進展する中で本市の人口も減少しており、地域活力の衰退などさまざまな影響が懸念されます。

その対策として、若者の流出に歯止めをかける必要があります。これまで取り組んできた子育て支援策に加え、基幹産業である農畜産業をはじめとする本市ならではの強みをいかした施策の展開により若者の定住につなげ、人口維持と地域活性化を

「対話と決断」で持続可能なまちへ

図つてまいります。

まちづくりは、10年後、20年後、さらにその先を見据えた持続可能なものである必要があります。市民の皆さまが元気に笑顔で暮らし続けられる小林市であるために、市民の皆さまとの対話を重ね、決断する市政運営を図つてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



永田平公園にウォーキングコースを整備しました。コロナ禍の健康対策として、ウォーキングをはじめませんか。

小林市を目指して

対話と決断 宮原市政2期目始動

宮原義久市長による2期目の市政運営が始まります。市民が笑顔になれる小林市を目指して、今後4年間にどのようなことに取り組んでいくのか、市政の展望を語ります。

これまで蒔いた種が
花開く4年間に

このたび小林市長として、2期目の市政運営の重責を担わせていただきます。

これまで蒔いた種が花を咲かせる4年間とすべく、1期目に掲げた4つの重点施策（具体的な事業は左の「重点施策」をご覧ください）について、市議会をはじめ各団体と協力しながら、さらなる市政発展に努めてまいります。

新型コロナウイルス対策から
小林の魅力を創出

今般のコロナ禍は、私たちの日常生活を大きく変え、地域経済にも大きな打撃となつています。感染症対策はもとより地域経済の復興は、本市の喫緊の課題です。

一方で、新しい生活様式に対応した取り組みが本市を活性化

させる機会にもなると考えられますので、ポストコロナを見据えた対策を講じ、本市の魅力創出に努めてまいります。

市民がいつまでも笑顔で明るく元気に生きがいを持ち、輝いて暮らすためには、健康であることが重要です。

宮原義久市長プロフィール

昭和38年1月1日生まれ、59歳。宮崎大学畜産別科卒。平成11年4月から市議会議員、平成15年から宮崎県議会議員（うち平成28年4月～平成29年4月まで宮崎県議会副議長）。平成30年4月に小林市長に就任し、令和4年4月市長再選。